



COBOL資産を最大限有効活用する 基幹システムマイグレーション手法

マイクロフォーカス株式会社

2014/04/24

目次

- マイクロフォーカスについて
 - マイクロフォーカスのCOBOL製品とソリューション
- 既存資産を有効活用した基幹システムマイグレーション手法
 - リホスト
 - モダナイゼーション
- まとめ

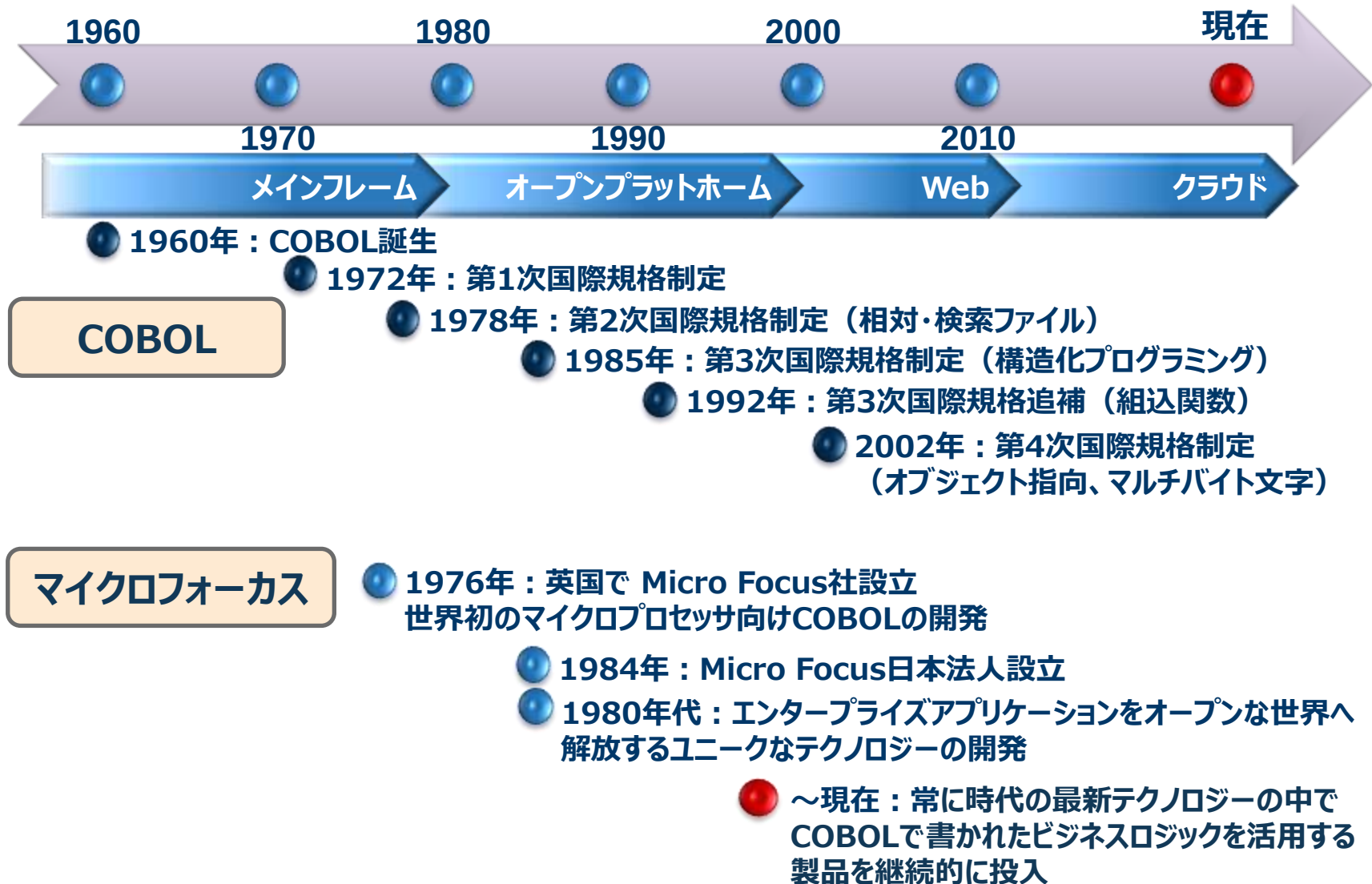
マイクロフォーカスについて

•エンタープライズアプリケーション管理と モダナイゼーションのリーディングカンパニー

- 1976年 英国で設立（日本法人は1984年設立）
- 全世界で約1,200名の従業員を持つグローバル企業
- 拠点：イギリス、米国、ドイツ、フランス、日本を始め世界中に事業所
- ロンドン証券市場に上場
売上 - 2013: \$414.0 million
- マルチプラットフォーム対応のCOBOL製品を開発・販売、
全世界で豊富な導入実績を持つ

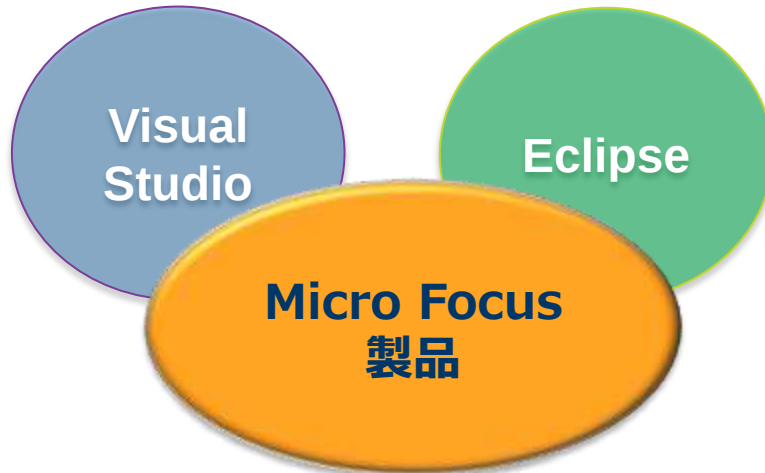


COBOL と マイクロフォーカス の歴史



マイクロフォーカスのCOBOL製品の特長

標準開発ツールの活用



- ✓ IDEを利用した開發生産性の向上
- ✓ 開発プラクティスの統合
- ✓ .NET や Java 開発に慣れ親しんだ開発者の取り込みが容易
- ✓ 効率的な COBOL 言語の習得
- ✓ 従来の Micro Focus COBOL 開発技術の利用
- ✓ COBOL 機能 と .NET 機能のすみわけ可能

強力なポータビリティ



- ✓ 多様化するプラットフォームに対応
- ✓ ビジネスロジックの書き直し不要
- ✓ 要件に応じた移行計画が可能
- ✓ 時代に沿ったシステム提供が可能

マイクロフォーカスのエンタープライズ・ソリューション

メインフレームマイグレーションを支援する製品群

分析	Micro Focus Enterprise Analyzer	既存アプリケーション資産の分析・把握を支援する製品
移行	Micro Focus Enterprise Developer ^{*1}	マイグレーションのための開発環境製品
実行	Micro Focus Enterprise Server	マイグレーション後の実行環境製品

***1** Micro Focus Enterprise Developer は Micro Focus Visual COBOL の上位製品です。
Visual COBOLの機能をすべて包含しており、メインフレームマイグレーション向けの機能が追加されています。

目次

- マイクロフォーカスについて
 - マイクロフォーカスのCOBOL製品とソリューション
- 既存資産を有効活用した基幹システムマイグレーション手法
 - リホスト
 - モダナイゼーション
- まとめ

Migration

動機

- ✓ 老朽マシンのサポート停止
 - ✓ リース満了
 - ✓ コスト削減
 - ✓ エンジニアの世代交代
 - ✓ 保守性向上
 - ✓ 生産性向上
 - ✓ 操作性向上
 - ✓ 新技術との融合
-

方向性

- ✓ 前進のためのマイグレーションなのか、やむを得ず行うのか
- ✓ 目的に合った方法と計画なのか
- ✓ 「課題解決」「低コスト」「リスク回避」



Migration

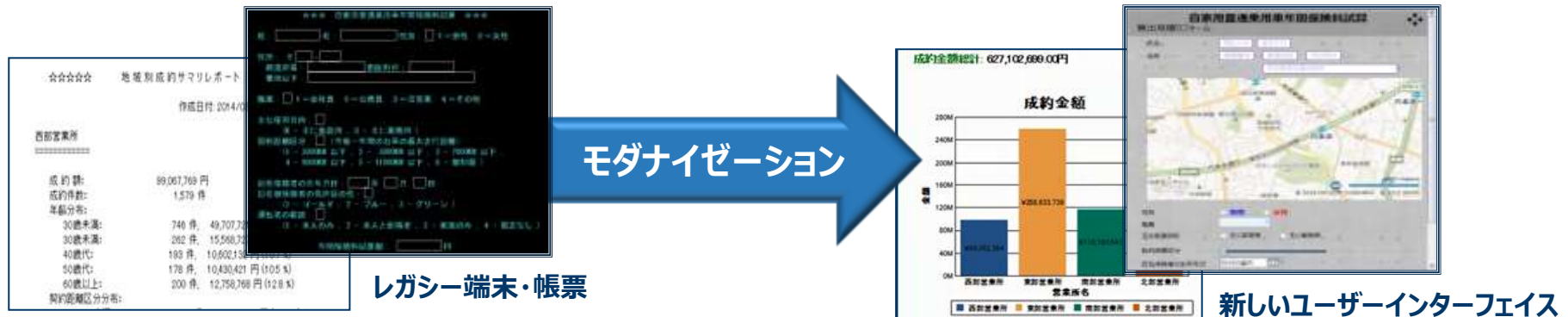
課題

- ✓ メインフレーム＝レガシーなのか
 - IBMはメインフレームの R&Dに投資を継続
 - メインフレームでなければならない業務の存在
 - それでも課題は残る
- ✓ コストさえ下げればよいのか
 - 人材 → 現存技術者の活用と新テクノロジーへの対応の両立
 - 資産 → 既存アプリケーション資産が企業の宝物
 - 予算 → たゆまざるコスト削減への要求
- ✓ メインフレームが撤廃できればそれで終わりなのか
 - それ自体が目的ではないことを認識
 - 将来に向けてビジネスの変革をもたらすマイグレーション計画



Migration

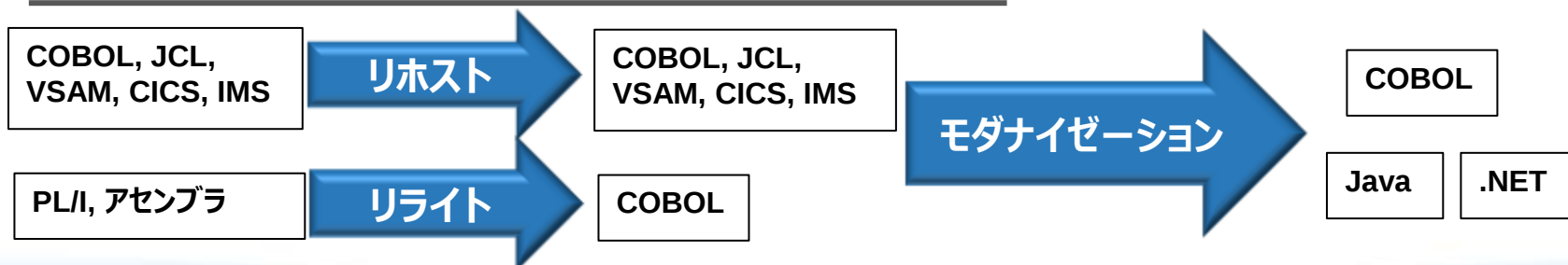
ユーザーインターフェイス



環境



アーキテクチャ



Migration

段階的なマイグレーションのストーリー

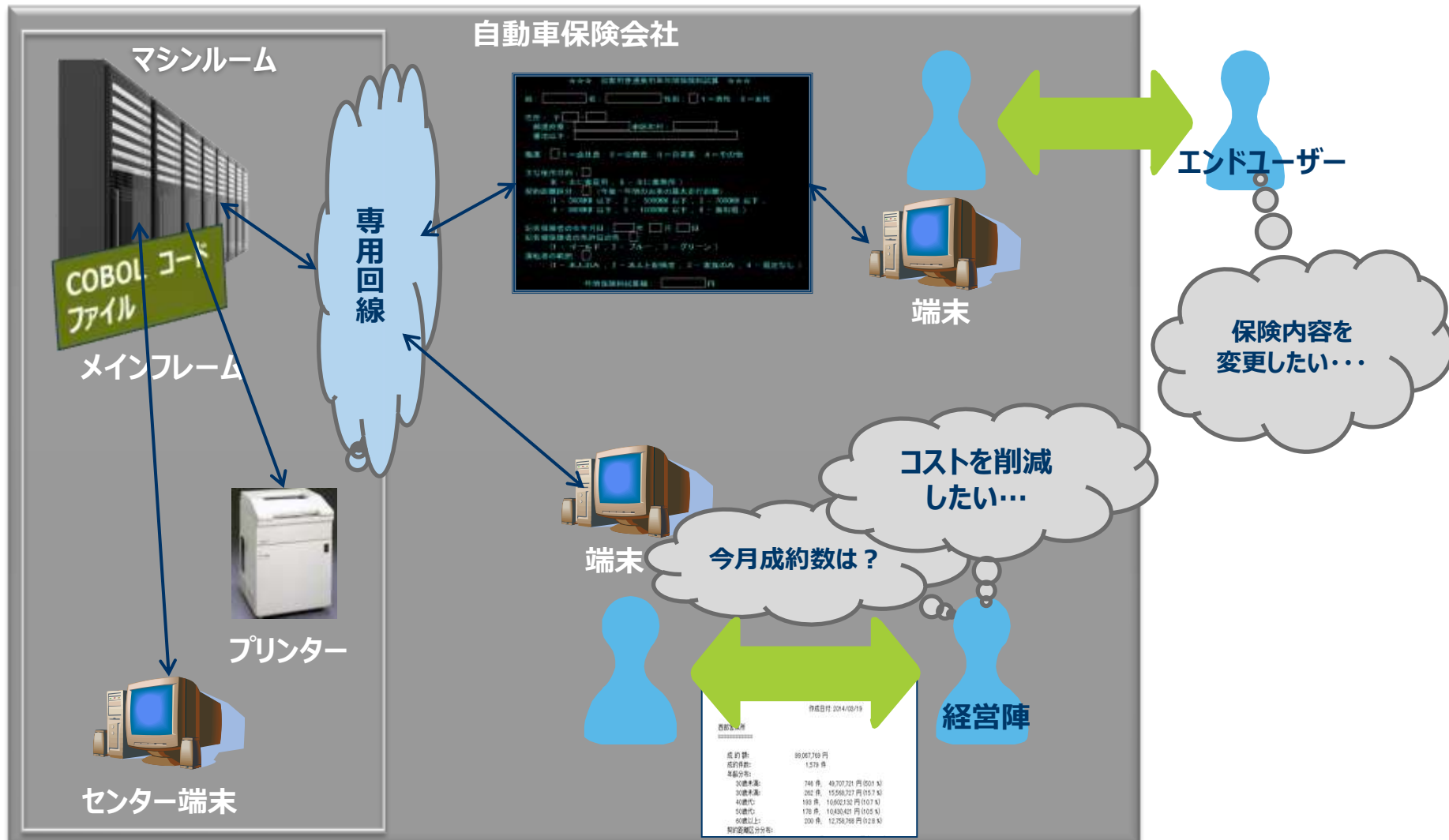
Phase 0： 現状

Phase 1： リホストの実行

Phase 2： モダナイゼーションの実行

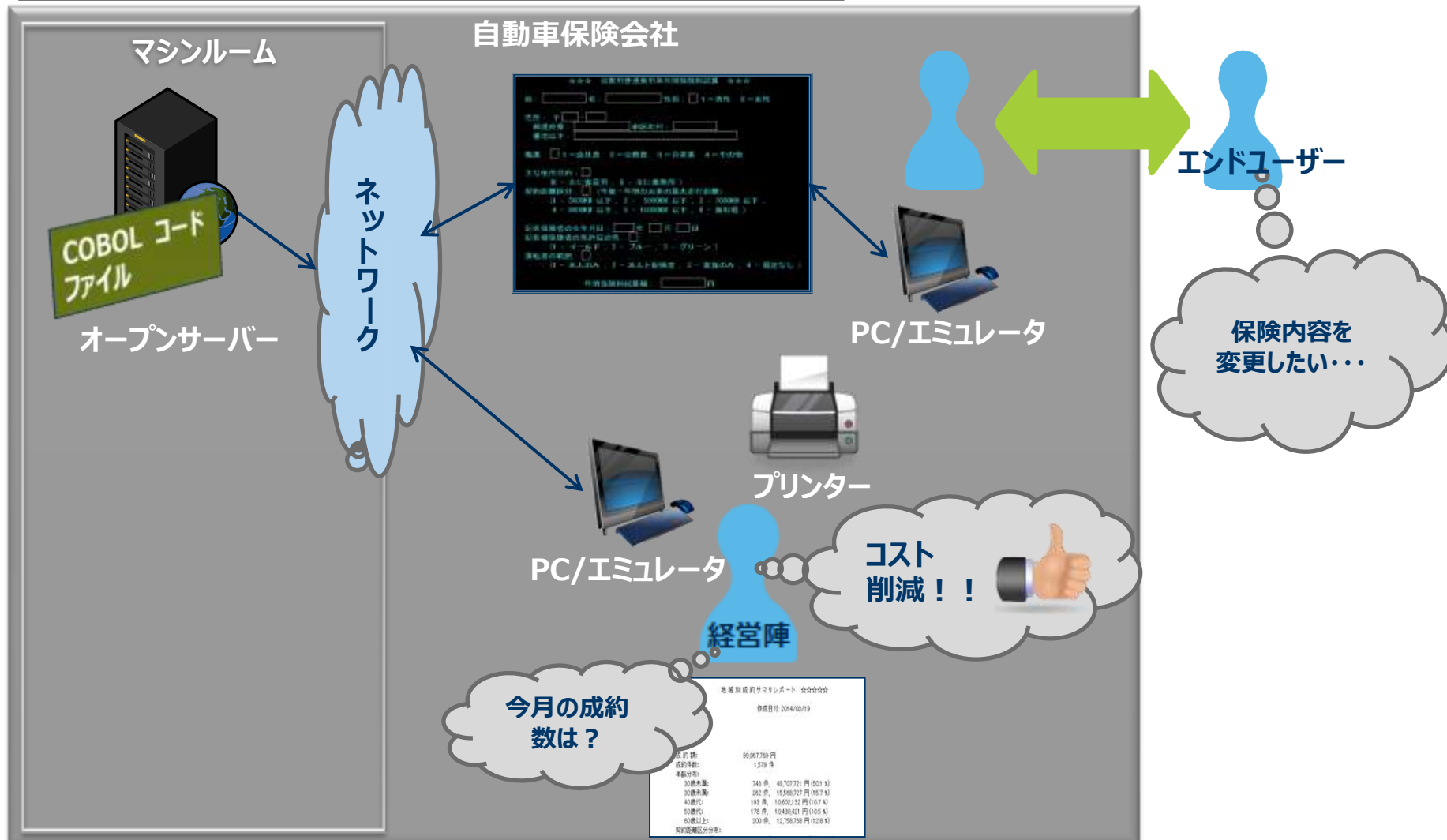
Migration

Phase0 : 現状



Migration

Phase 1 : リホストの実行



Migration

リホストにおけるメインフレーム資産の移行

- ✓ バッチ
 - COBOL ソース
 - JCL
 - プロシージャ定義
- ✓ CICS
 - CICS 埋め込み COBOL ソース
 - BMS 画面定義
 - 資源定義ファイル
- ✓ IMS
 - CBLTDLI呼び出し、または EXEC DLI COBOLソース
 - IMS 構成ファイル
 - IMS データベース
- ✓ ファイル
 - SAM
 - VSAM/KSDS/ESDS/RRDS

では、実際に見てみましょう。



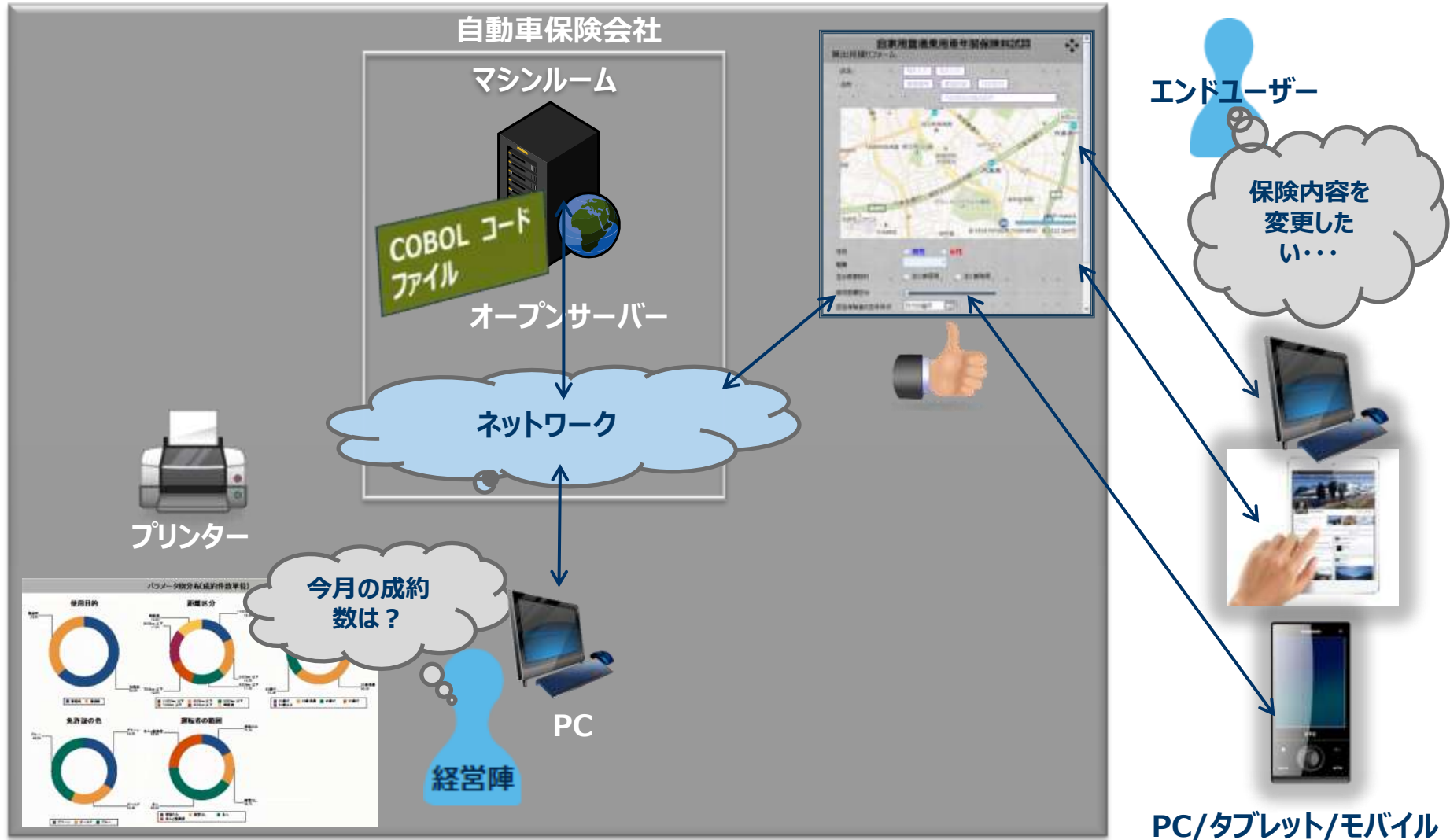
Migration

Phase1: リホストの利点

- ◎ メインフレーム撤廃による TCO削減
- ◎ ユーザーインターフェイスの変更なし
- ◎ プログラム資産の再利用によるリスク回避
- ◎ JCL, COBOL, CICS, IMSで引き続きメンテナンスが可能
- ◎ Enterprise Developerの高生産性

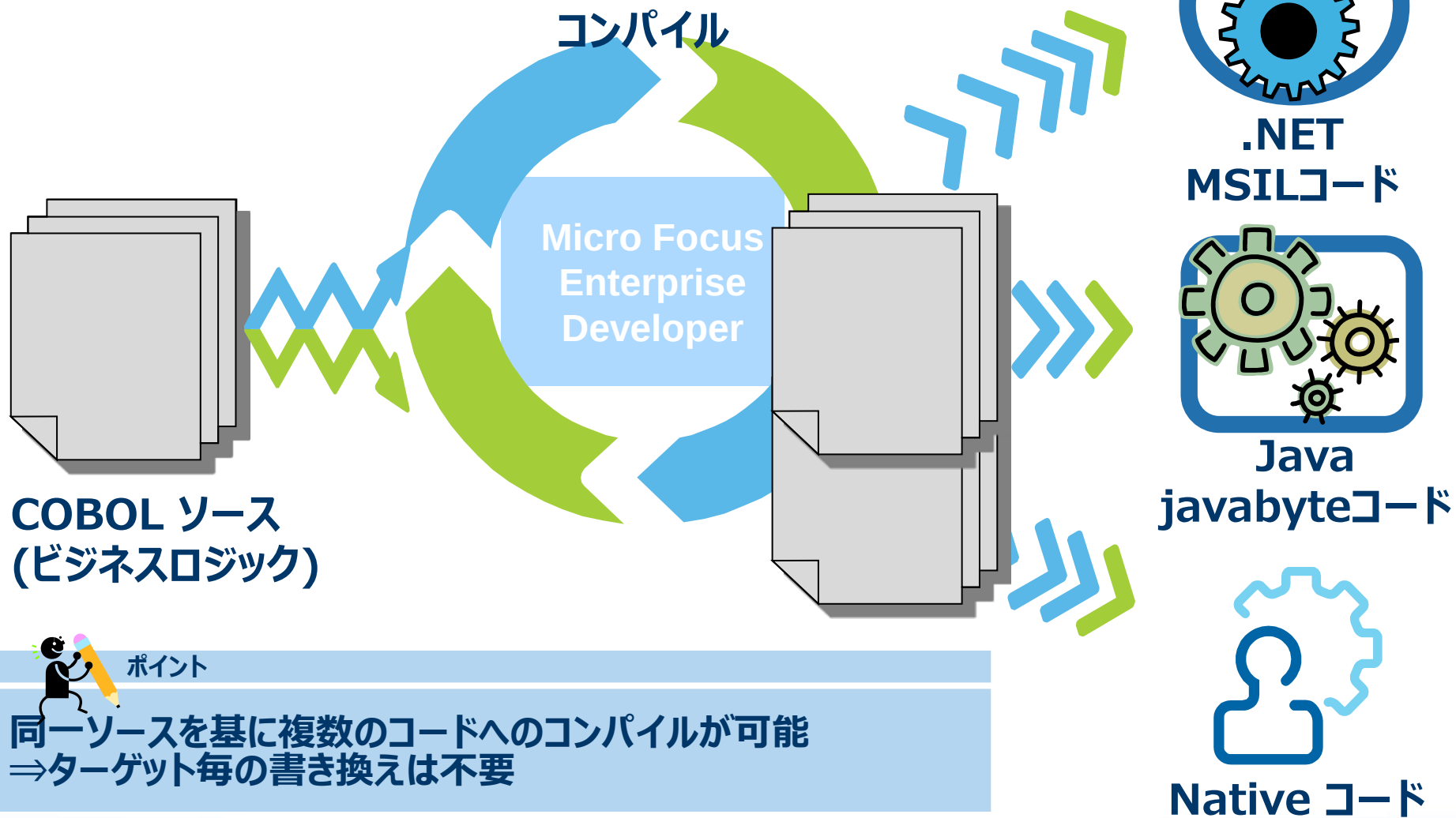
Migration

Phase 2 : モダナイゼーションの実行

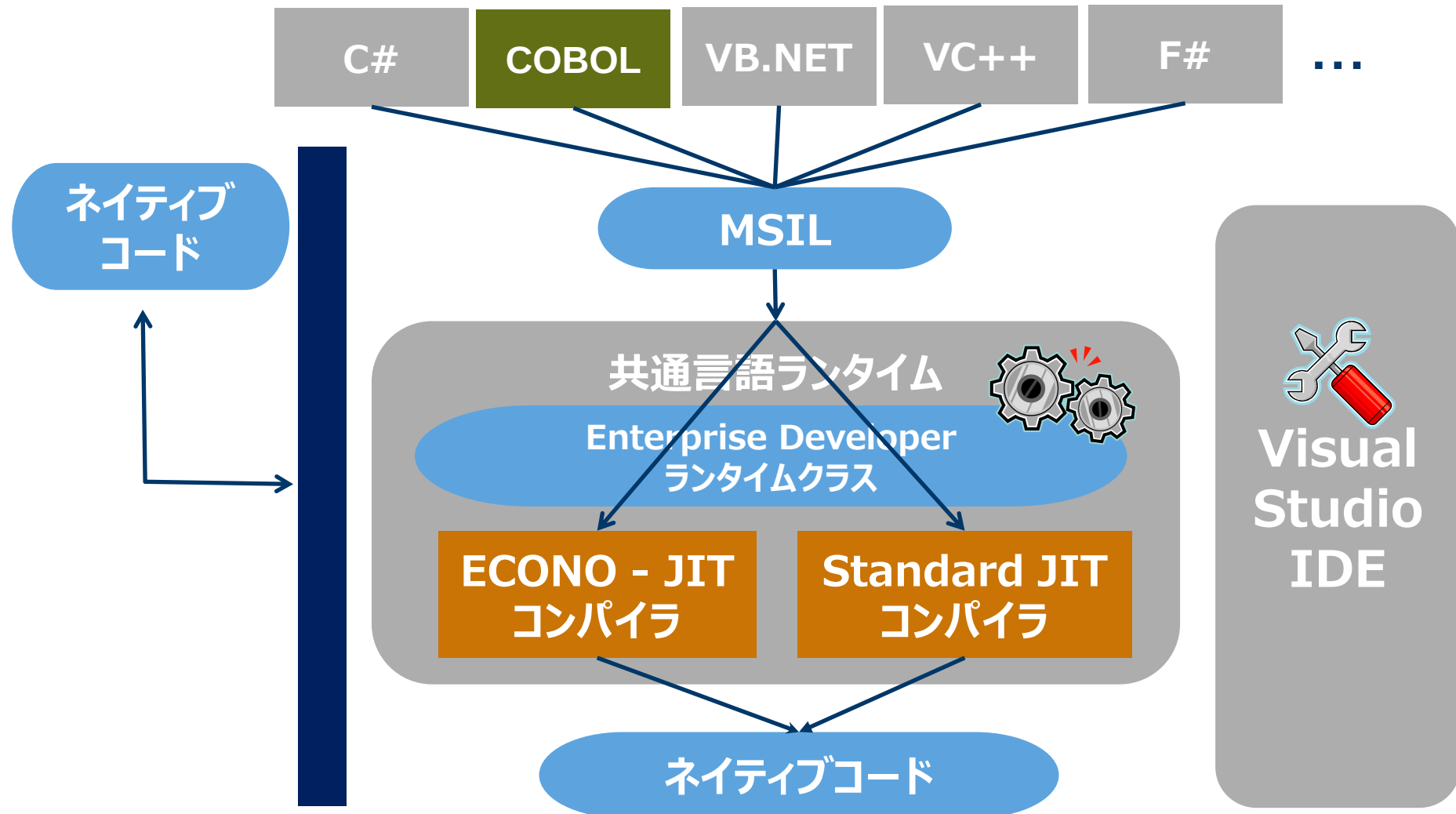


Migration

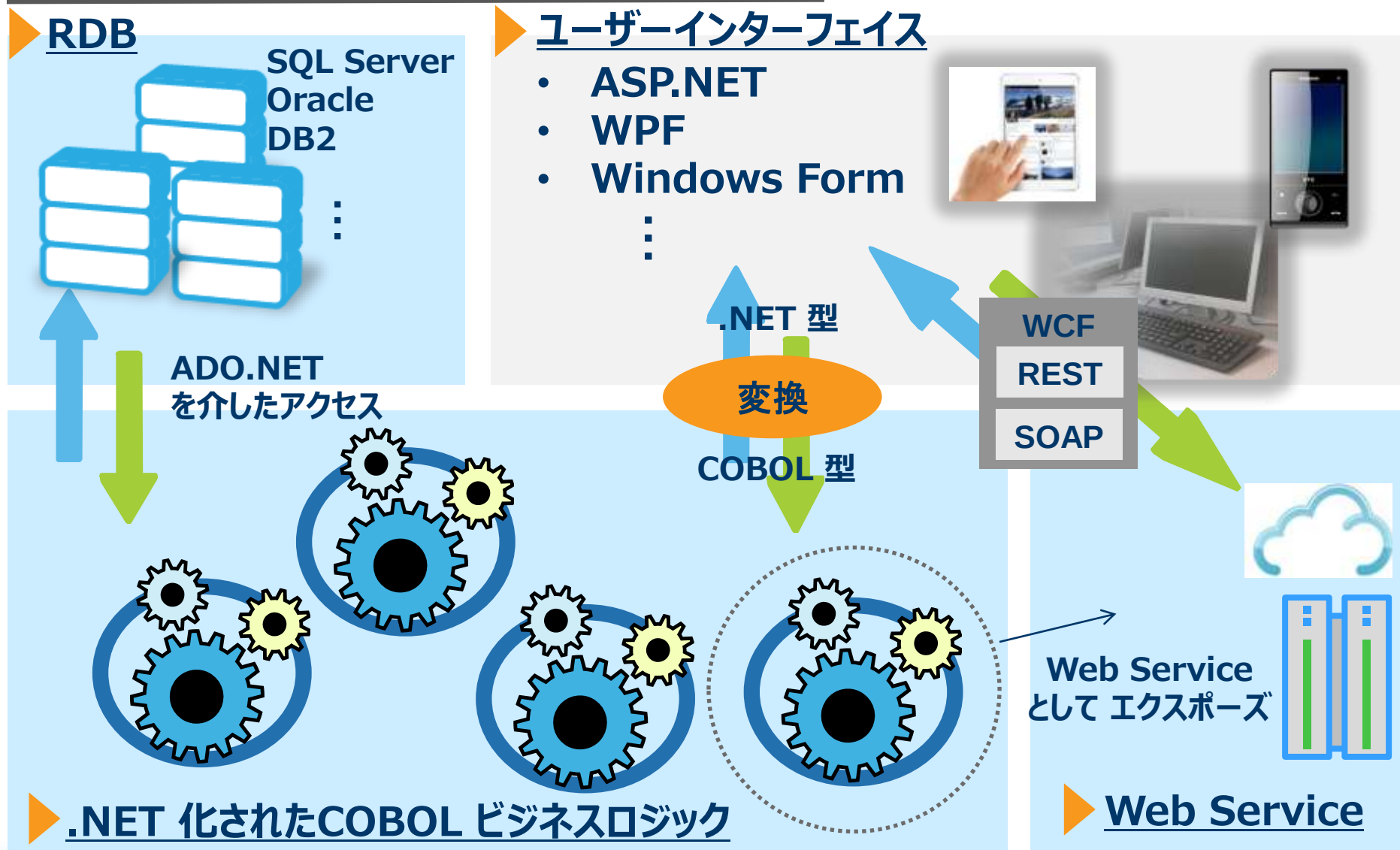
コンパイルターゲットの選択肢



Micro Focus製品の .NET 化機能 ～COBOL 言語を .NET 言語として処理～



モダナイゼーション手法 - .NET化



では、実際に見てみましょう。



Migration

Phase 2: モダナイゼーションの利点

- ◎ 実績あるCOBOLロジックはそのまま使用可能
- ◎ ユーザーインターフェイスやテキストベースの帳票は、時代に適したテクノロジーでリライト
- ◎ メインフレーム固有の開発手法は段階的に撤廃できる
- ◎ Enterprise Developer使用で多言語間でもデバッグが容易

目次

- マイクロフォーカスについて
 - マイクロフォーカスのCOBOL製品とソリューション
- 既存資産を有効活用した基幹システムマイグレーション手法
 - リホスト
 - モダナイゼーション
- まとめ



Summary

- ☑ **マイグレーションの狙いを明確にしましょう**
- ☑ **狙いに適合した手法を採用しましょう**
- ☑ **一度にすべてを行う必要はありません**
- ☑ **まずリホストによってコスト削減が可能です**
- ☑ **その後で段階的なモダナイゼーションを進めてゆきましょう**



Information

サービスのご案内

- カウンセリング（COBOLプログラムの移行性診断）
- ソリューションプロバイダ紹介（サンプル移行、マイグレーション体験等）

製品・サービスに関するお問い合わせ先はこちら；

マイクロフォーカス株式会社 営業部

TEL: 0120-20-9612 / E-mail: sales@microfocus.co.jp

マイクロフォーカス 定期セミナー

- マイクロフォーカスでは、各種テクニカルセミナーを随時開催しております。
開催日、内容はこちらをご覧ください；
<http://www.microfocus.co.jp/resources/events/>